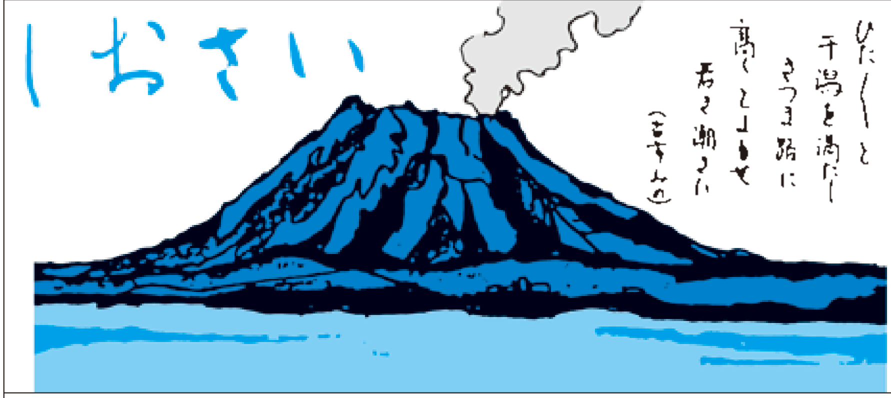

編集発行人
鹿児島大学医学部附属保健婦学校
鹿児島大学医療技術短期大学部専攻科地域看護学特別専攻
鹿児島大学医学部保健学科看護学専攻
同窓会(しおさい会)
事　務　局
〒890-8544 鹿児島市桜ヶ丘8丁目35-1
鹿児島大学医学部保健学科
地域包括看護学講座内
連絡先　会長　徳永　龍子
電　話

更なる発展を願う同窓会への思い

会長　徳永　龍子（S45年卒）

同窓生の皆様お元気ですか。鹿児島大学保健師同窓会「しおさい会」は、新元号で第二十回総会を迎えます。記念講演は、元日本看護協会保健師職能委員長の中板育美先生にこれまでの保健師教育や活動に加え、現在、これからの保健師活動を展望いただきたいと計画中です。

本校は、昭和十七年鹿児島県立保健婦養成所開学から七十五周年、同窓会としては四十周年を迎えます。会員の皆様には、母校を思い四十年会費を払い参加協力をいただきました。役員の皆様には、多忙な本務の傍ら同窓会運営を熱意と誠意をもって担っていただきました。心から感謝いたします。

鹿児島の保健婦養成は、「僻地性に富み離島が多い本県の特殊事情は、保健衛生こそ県政の重点課題」として企画されました。その後、七度の校名変更を経て、念願であった大学昇格まで五十五年を要しました。昨年は二十周年記念式典でお祝いを申し上げました。本学の歴史をみますと、昭和二十三年保助看法で女子のみの看護職は、学校教育法で各種学校のため大学昇格が叶いませんでした。開学当初から制度さえ整えばいつでも大学課程にできるよう講義内容、実習場が準備され何度も関係者が陳情をされた記述が残っています。昭和五十一年専修学校設置基準の制定に伴い、教育条件の充実校として指定されました。平成四年には、看護婦等の人材確保法が成立し、大学設置七割の補助金が予算化され、平成十年十月本校も大学に昇格しました。平成二十一年には看護職も法改正でやっと高等教育となり、助産師及び一部保健師は大学院教育に昇格しました。

さて、「しおさい会」の活動内容は、同窓生と学生も対象としたセミナーや講義への参加協力、学生による同窓生へのインタビュー家庭訪問等です。会報では毎年同窓生の活躍紹介、同窓会広報、活動報告、制度改正の情報提供などを行っています。昨年には念願のホームページも開設しました。総会は隔年で、研修会も同時開催しています。

今後も鹿児島の保健師活動の未来展望を抱き、看護の将来を見据えたあるべき姿に向かい学ぶ学生、会員を支援継続できる同窓会活動ができることを願っております。八月三日の総会では、八十歳以上の会費免除等の運営について協議いただく予定です。皆様のご参加をお待ちしております。

（保健学科設置二十周年記念誌への寄稿文より一部抜粋。ホームページにて全文掲載中。）

第二十回しおさい会総会のご案内

日時：八月三日（土）
会場：城山ホテル鹿児島（受付：九時三十分～）　会費：六千円

おめでとう！保健学科設置20周年

平成30年10月1日をもちまして、保健学科が設置20周年を迎えることになりました。去る10月5日に開催された記念祝賀会へは、徳永会長が同窓会の代表として出席致しました。現在、20周年記念誌の製作も進められているとのことで、完成を心待ちにしているところです。

また、時期をほぼ同じくして、保健学科の講座再編が行われたことに伴い「地域看護・看護情報学講座」は、新たに「地域包括看護学講座」へと生まれ変わりました。当講座は、公衆衛生看護学・看護情報学に加えて、精神・老年・在宅といった複数の領域を横断する形で編成されています。

さらに、平成31年度からは、これまで15名枠であった保健師課程の履修生枠が40名へと増員されるなど、来るべき新元号とともに、学校においても多くの変化を迎える年になりそうです。

節目を迎えた保健学科を、ぜひ一緒に盛り上げていきましょう！

保健学科看護学専攻
オリジナルバージョン
さっつん

看護学生、大学を語る!!

9月25日（火） MBC 南日本放送「かごしま4」の特設コーナー『さっつんキャンパスレポート』にて、本学 看護学専攻4年生で保健師課程履修生の和辻雄仁くん、安藤小百合さんがテレビ出演いたしました。出演が決まってから、事前の台本づくりをはじめ企画に関する入念な準備を重ねて、いよいよ本番当日♪

看護職養成課程の起源の話、20周年を迎えることになった保健学科のこと、さらには現在の大学生活や公衆衛生看護学実習の様子に至るまで、約8分間たっぷりと愛を込めて語らせていただきました。

保健学科設置20周年を記念して専攻毎にデザインした“のぼり”を展示

一部、ご紹介します

実習の様子（地区踏査）

実習を改めて振り返る機会となった今回のテレビ出演。看護活動のひとつでもある「地域への還元」の契機として、少しでも恩返しになれば…そんな思いを込めました。

地域での健康教育

「思い出に残ったのは、住民の方へ健康教育を行ったこと」「同じテーマでも違う地区なら内容を変えるなどの工夫が大切と学んだ」と大崎町での学びを語りました。

教育課程の歴史にも触れて…

保育園実習の様子（S19）を交えながら、しおさい会の活動のこと、今回開設されたホームページのことまで、内容盛り沢山に伝えてくれました。

＼ 今回、貴重な経験になりました。これからもがんばります ／

和辻雄仁です。僕自身、初めてのテレビ出演。生放送でもあり、アドリブなどうまく対応できない点も多かったですが、貴重な体験となりました！限られた時間の中で、視聴者の皆さんに何をどんな言葉でどのように伝えるのか考え、実践することが難しかったです。これらは今後の課題です。地域の保健を担える保健師になります！

今回、保健師について少しでもアピールできたかなと思います。途中、限られた時間で伝えることの難しさも感じ、不安もありましたが、広報の方や和辻君と協力し放送は上手くいったと思います。春からは、大隅地域の役場で保健師として活動します。今回の経験も活かして町のPRも出来る保健師として活動し地域貢献しながら楽しめたらと思います。

＼念願の ホームページが完成しました !!

パソコン上では、迫力のドローン映像からはじまります！

鹿児島大学保健師同窓会 しおさい

鹿児島　しおさい

この度、しおさい会のホームページ（HP）を開設いたしました。名前を「しおさい」と言います。しおさい会の会員をはじめ、広くみなさまに可愛がっていただけるように･･･そんな願いを込めて企画されたものが、いよいよデビューのときを迎えました。

といっても新芽を出したばかりです。『しおさい、イイネ！』と言っていただけるような、温もりある場となるよう育てていけたらと思っております。ぜひ一緒に良いものにしていきましょう！

そこで、みなさまからの投稿やアイデアをお待ちしています！

＼ ピン！ときたら　Let's try♪ ／

たとえば、「こんなこと」はありませんか？ ー日々のなかでのちょっとした気づき

感動した！ ビビっときた！

あの人＆取組み、伝えたい!!

みんなは どう感じてる？

世界の旅、最高♪

やり方は 大きく２つ！

① HPに掲載！

用　意
文章や写真などのデータを準備します

↓

連　絡
担当者へ連絡（主に3つ）

①HPの【お問い合わせ】から連絡
②メール：shiosai.group@gmail.com
③人づて

↓

掲　載
ホームページに載ります！

② SNSで参加！

撮　影
写真を撮ります（テーマは自由）

↓

投　稿
インスタグラムのコメント欄に

#しおさいフォト

と書き入れて、投稿！

↓

掲　載
みんなでアルバムがつくれます！

「研修報告の場に活用してみようよ！」
「英語を添えて、情報発信してみる♪」
「市町村特設ページ、つくれるかな？」

ホームページだからできること、きっとあります。

やってみたいこと募集します。
ぜひお声かけください。

なにかワクワクすること、しましょう♪

スマートフォン用
QRコード

第8回 しおさい会セミナー報告

平成三十年五月十九日（土）、学生、会員等、総勢七十五名が参加して、鹿児島大学医学部保健学科地域老年・看護実習室で第八回しおさい会セミナーが開催されました。まず平成二十五年卒業の同期のお二人から「地域看護の醍醐味」のテーマにそって体験発表をいただき、その後十グループに分かれて、保健師活動への熱い思いを語り合いました。

【体験発表①】

「多くの出会いを力にして」

姶良保健所
西　ひろみ（平成25年卒）

私は元々保健師を目指していたが、一度臨床経験を積みたいと考え看護師の道を選択した。看護師として働く中で、やはり保健師を目指したいという思いを強くした多くの出会いがあった。

脊髄病変のある患者さんとの出会いでは、病気や障害があっても環境を整えられればその人らしく生活できるのだと感じたとともに、やはり生活の場は地域だと考えさせられた。

様々な職種の方々との出会いでは、できる力や生きがいを支えるという看護職の専門性と役割を改めて感じた。

私の祖父（享年九十一歳）からは、祖父の死より人生の終え方について考えさせられ、ぴんぴんころりで死ぬまで好きなことが出来ることの幸せを感じたと同時に、最後までその人らしく生活をできるような支援が自分にも出来たらと考えるきっかけになった。

住民との出会いでは、結核患者の訪問で、顔を合わせて納得がいくまで話をする大切さ、常に相手の思いを聞き、捉えたいという姿勢を大事にしていきたいと感じた。

様々な先輩保健師の姿からは、保健師としての専門性を発揮するだけでなく、母や子、孫など一人の人としての立場から関わり身近な相談者となることの大切さを感じた。また、どのような仕事でも一つの手段として使うこと、出会う人をその場限りの関係としないことの大切さを学んだ。

保健師として大切にしていきたいこと、学生の皆さんに伝えたいことは、保健師になるには色々な道があること、どのような道を進んでも自分の強みになり、その人にしか見えない世界がある。保健師の視点はどの職種でも重要であるが、保健師として地域や対象者、現場で働く人の声を聴ける人になってほしい。そして出会いを大切にしてほしい。

私のなりたい保健師は「地域のキューピット役」。看護師として得た経験を含めてキューピットが矢を放つように必要な人に必要なタイミングで情報発信や支援を行い、地域の繋がりづくりや橋渡し役として貢献していきたい。

【体験発表②】

「五年間の保健師活動から見えたもの・感じたこと」

鹿児島市国民健康保険課
戸田　実希（平成25年卒）

私は地元の短大卒業後、この鹿児島大学医学部保健学科三年次に編入した。『編入生は保健師を目指しているのでしょう』と言われるが、保健師になりたいというだけで編入した訳ではありません。保健師になりたいという明確な理由もなかったけれど、保健師実習でかっこいい理由もなかったけれど、

出会った先輩保健師さんの住民とゆるやかに語り、前には出過ぎないけど、リードしている姿に、その当時はすごく憫々としていたからこそ、それだけに保健師への道へ惹かれていった。なんとなくいいなで始まった保健師への道だからあまり自信はないし、すごい事も言えないけれど今、とても楽しくやっている。

鹿児島市の保健センターでは、色々な仕事をした。自転車に体重計を載せて母子の家庭訪問、一歳六か月健診や三歳児健診での集団教育。集団教育では、伝わる教育、興味を引く教育は？四年間の中で一番試行錯誤した。また、お達者クラブやボランティアで運動を普及し健康増進を図る運動普及推進員支援事業。ボランティアの方々と熱く語ったのもいい思い出だ。

初めての異動は地区も持たない国民健康保険課だった。あらゆるデータを使って、これからの医療費適正化・国保財政の安定化のために分析し、必要な事業を考え、企画し、展開、評価、そして次に繋げる。まだ保健師として五年間だが、保健師活動で得られた大切なものがある。地区担当保健師として、地域の人と本気で「地域の未来」を語れたことだ。次から次に追われる「仕事」。毎日が「もぐらたたき状態」。もちろん、辞めたくなる日も・・・。それでも保健師を続けられたのは、私のこれからの決意表明のようなものだが、保健師としてこれから、大事にしていきたいことは、アンテナを立てて、しっかりニーズをキャッチすること、仕事の先には、必ず住民や地域があること、虫の目・鳥の目・魚の目のように遠近両眼メガネのようにうまく使いこなしていきたい。

今回の発表で、振り返ることで見えた保健師の魅力、これからも楽しく元気に保健師活動が頑張れそうだ。

あっという間に時間は過ぎ去り、参加者は「もっと語り合いたかった」と心残りを抱きつつも、保健師活動への熱い思いを共有し、セミナーは終了となりました。

（文責：仮屋崎・末吉）

第８回しおさい会セミナー参加者について

セミナー参加状況
【しおさい会セミナー参加者】
学生：36 名　　学生以外：39 名（しおさい会会員 35 名・会員外 4 名）

【学年・年齢】
学生：1 年生 4 名・2 年生 10 名・3 年生 8 名・4 年生 13 名・院生 1 名
学生以外：20 歳代 14 名・30 歳代 5 名・40 歳代 3 名・50 歳代 7 名・60 歳以上 10 名

セミナーアンケート集計結果より

（アンケート回答　学生 31 名、学生以外 31 名）

1　職業（学生以外）
市町村職員　元：3 名・現：8 名、県職員 元：3 名・現：7 名、学校・教育関係 元 1 名、現 2 名、その他：5 名（県民総合保健センター・厚生連等）

2　セミナーについて　良かった点・印象に残った点
【活動報告】
・二人の発表がとても素晴らしかった。体験したことをしっかり伝える言葉と、前向きな視点をもっていること、後輩に伝わったと思う。
・同期の二人が、それぞれの道を経て保健師へ。保健師を目指す方々のよい参考になったと思う。
・自分にとっても、いい刺激と元気をいただいた。
【グループワーク】
・学生・先生方のみならず、現役・OGの保健師さんと同じグループで話を伺えてよかった。
・経験のある保健師と若い保健師の両方の話を聞くことができ、多世代の交流ができた。
・ベテランの方のお話はもちろん、保健師になって日が浅い方の話はより身近でよかった。
・保健師として働いている方の生の声をきいて、改めて保健師の魅力に気づくことができた。
・グループに分かれていたので質問しやすかった。
・先輩方の言葉の重み、学生の方のあふれる思いに感動しました。
・もう少しグループワークと全体シェアの時間がほしかった。
【進路】
・保健師と看護師と迷っていた自分にとって新鮮だった。
・先輩たちと話すことでとても勉強になり、自分の将来について考えるきっかけになった。
・離島の保健師になります！

【先輩の姿】
・たくさんの先輩方のお話がきけてよかった。保健師って素敵だと思った。
・保健師さんの仕事に対する熱い思いを感じました。
【学生からの意見】
・今までぼんやりとイメージしていた保健師について理解でき、とても良い会だった。
・保健師は本当に多くの分野に分かれ、その分野ごとに感じる醍醐味が違うということが印象に残った。
【卒業生からの意見】
・学生さんの感想を聞いて、学生の頃の保健師への思いを思い返すことができて、その頃の気持ちを忘れず、仕事に励もうと思った。
・学生さんと触れ合えて、フレッシュな気持ちになれた。
【会員以外からのご意見】
・学生の頃（他校出身）の時にこの会を知っていたら良かったと思う。
【開催時期】
・実習準備前に聞いてみたら、より視野が広がると思った。
・実習に向けてのエネルギーを頂き、実習の楽しみが増えた。
【全体を通して】
・鹿児島の保健師活動を支え、つなげてきた大先輩の皆様からお話を聞けてよかった。
・今回初めて参加したが、とても深い学びと楽しい時間になった。今後ももっとみんなに「しおさい会」を知ってもらい、もっと多くの人に参加してほしいと思った。

しおさい会セミナー「気づきと学びのマップ」

保健師って何だろう？

一言では言い表せない！！
それもまた保健師の魅力♡

自分なりの保健師像を考え続けることで成長につながる！！

キーワードは
「地域」「つながり」「力」

大切にしていきたいこと

- 生の声をきく，思いを汲みとる
- 地域の方々から学ばせてもらう（姿勢）
- 人とのつながりを大切に，出会いを大切に
- その場限りの関係にしない。顔と名前を覚える
- 言葉で伝える，自分から話す⇔伝える難しさもある
- 相手を否定せずに共感から
- “人”として関わる。生活者としての見方
- 拒否されてもあきらめず、繰り返しアプローチ
- 長期的な目線で考える
- 虫の目⇔鳥の目⇔魚の目
- できる力や生きがいを支える看護の専門性

保健師になるためにはいろいろな道がある。どんな道を進んでも価値がある！

経験は宝。出会いが力。

- たくさんの人と出会い、いろいろな価値観を知って、自分も考え方が広がっていく
- どんな経験も自分の糧になり、成長に近づける
- 働き続けることで得られるものが多い
- それぞれの経験は宝。出会いが力
- 人生とは、出会いとは、人を介して自分と出会うことである。未来への切符

みんなが暮らしやすい地域をめざして

- ともに課題を見つけてその課題に向けて突き進んでいく
- 住民の声を繋いでいく“キューピット役”
- **地域**の方々が、安心・安全に健康でその人らしく生活するための影の立役者
- **地域**の人との「つながり」を強く実感できる仕事
- **地域**の見えない部分までネットワークをつくり、みんなが暮らしやすい地域をつくる
- 保健師には**地域**の人と行政をつなぐ役割がある
- 他職種との連携、情報発信ができるところ
- “人”としての関わりで身近な相談者になれること

ほかにもいっぱい！学びと気づき

- 「地域の人々に育ててもらった」…職場内、市町村、関係機関、そして地域の方々との出会いできっかけをもらい、仕事の喜びや人としての成長を得られた
- 常にアンテナを張り、出会いを大切にしながら、地域の人々の生活を支援していく
- 「地域の人と未来を語れた」（という語りを聞いて）これぞ保健師活動！
- 保健師は地域の人とのつながりがとても深い。地域の人と力を合わせれば、大きな力になる
- 「地区担当を誇りに思う」（という語りを聞いて）地域でいろいろな人に出会い、地域に入り込みたい

（ 文責：石野・森 ）

しおさい会セミナーに参加して

安部　樺恋
（看護学専攻1年）

「やはり、保健師を目指したい。」改めてそう感じたしおさい会セミナーだった。今回、保健師活動をしている方のお話を聞いてわかったことが二つある。

一つは保健師とは多岐にわたり、いろいろな活躍の場があることである。この会でお話ししていただいた方は地区担当保健師や国民健康保険課の保健師として活躍されている方だった。国民健康保険課では、市国保の健康づくり・疾病予防に取り組んでいて、健診・医療・介護等のあらゆるデータを使ってこれからの鹿児島市のために分析し、必要な事業を考え、企画し、展開する。私が今まで知っている保健師とは違った活動の場を学べて、またさらに保健師になりたいという思いを強くした。また地区担当保健師としては、地区住民の健康づくりをされていて、家庭訪問や乳児健診、地区のお達者クラブといった機会が、地域の方と本気で向き合える場であることを実感した。私は地域に密着した保健師を目指しているので、戸田さんがおっしゃった「地区担当保健師として、担当地区を誇りに思い保健師活動ができた。」という言葉が一番心に残った。

もう一つは、保健師の先には必ず住民がいること、地域があることだ。今は見えにくい環境だからこそしっかり意識することを学び、また虫の目、鳥の目、魚の目の三つの目をうまく使い、地域住民に耳を傾ける大切さを感じた。また、西さんのお話で顔をあわせて納得がいくまで話し合う大切さ、保健師の専門性を発揮しながら一人の人間としての関わりで、身近な相談者になりたいという思いは、保健師を目指す私の一番の目標でもあるので、大いに共感するところがあった。今回、初めてしおさい会セミナーに参加させてもらい、目標に向かって進めたと思う。

東　佑美
（看護学専攻3年）

私は、今回しおさい会セミナーに参加することができて、とても嬉しかったです。保健師を目指す私にとって、先輩方のお話を聞く機会に出会えたことはとても貴重な経験となりました。「地域看護の醍醐味」をテーマにした体験発表では、先輩方の大学時代から現在までの経過や思いを聞くことができました。また、現在どのような仕事をされ、保健師として活動される中で大切にされている事を聞くことができました。地域・住民の方とのつながりを大切にし、寄り添い、「鳥の目・虫の目・魚の目」を持って活動されていることを知り、保健師について の知識を深めるとともに素敵な仕事だなと再認識しました。

先輩のお話の中に「どのような道を進んでも自分の強みになる。」との言葉がありました。私は保健師を目指し、看護師として臨床を経験後、今年四月に編入学しました。大学に編入学するまでに、たくさんの回り道をしてきましたが、自分がたどってきた道は無駄ではないのだなと思え、自信になりました。グループでも、生活者の目線を大切にすること、言葉・出会いの大切さなど、どのようなことを大切に地域の方々と関わっていらっしゃるか、保健師としての先輩方の思いや考えを聞くことが出来ました。私も将来しおさい会のメンバーに入りたいと強く思いました。

現在、久しぶりの学生生活で苦労することもありますが、授業の一つ一つが興味深く、また保健師についての知識を深め、学べることをとても嬉しく感じています。保健師になれるよう に毎日を大切に過ごしていきたいと強く思い、自分の気持ちを再確認できた日になりました。たくさんの貴重なお話を聞かせていただき、本当にありがとうございました。

NEW FACE!!

ニューフェイス

川薩保健所
地域保健福祉課地域支援係
中村　彩乃（H29年卒）

私は、平成二十九年四月に鹿児島県の保健師として就職しました。夢であった保健師として働くことができるという喜びと社会人になったという責任を感じながら、希望と不安を胸に川薩保健所に初めて入った時のことを今でも鮮明に覚えています。

現在私が担当しているのは、精神保健福祉業務です。精神障害者とその家族への支援を中心に、地域移行・地域定着支援や家族支援教室・交流会の企画・運営、自殺対策に関することなど、業務内容は多岐にわたります。保健師として働き始めて一年九か月が経ちましたが、業務を通して日々学ぶことばかりです。

特に個別支援においては、『人生を切り拓いていくのはその人自身であり、「支援をする」ことよりも「一緒に考える」という姿勢が重要である』と学びました。保健師になったばかりの頃は、「何かしなければいけない」と思い、何もできない自分を責めてばかりいました。しかし、ある対象者の方に「いつも話しを聞いてくれてありがとう」、「あなたの声を聞くだけで安心する」と言われ、結果がすぐに出なくても一緒に考えるだけでその人の心の支えになっていると分かり、とても心が救われました。また、地域生活で何かあった時に相談できる人がいるという保健師の存在そのものが、とても大切であると感じることができました。

保健師の仕事は試行錯誤の連続です。すぐに結果が出ないことやうまくいかないことも多いですが、だからこそやりがいのある仕事だと感じています。自分の未熟さを感じ悩むことばかりですが、職場の上司や先輩方、同僚、そして保健師の先輩方に支えられています。これからも周りの方々への感謝の気持ちを忘れずに、保健師として多くの経験を積み、もっともっと成長できるように日々努力していきたいです。

職場紹介

【屋久島町・屋久島保健所】

松永　真里江（H25年卒）

屋久島町は平成十九年に旧上屋久町と旧屋久町が合併し、屋久島保健所は屋久島町一町を管轄しています。今回は、初の試みとして屋久島町と屋久島保健所の合同で職場紹介をします。

屋久島町は、屋久島、口永良部島からなり、屋久島は九州最高峰宮之浦岳を持つ円形の山岳島で、本土架橋島を除く離島の中で全国四位の面積となっています。黒潮の影響により気候は温暖多雨で、『屋久島は、月のうち35日は雨の降るところ』という言葉のとおり、山岳部では年間降水量は8,000～10,000ミリメートルにも達します。また、平成五年世界自然遺産登録された樹齢数千年と言われる屋久杉をはじめとする貴重な自然をご存知の方は多いと思います。

人口は平成二十九年十月一日現在で12,516人(高齢化率33・6％)、世帯数6,062、出生数115人となっています。

屋久島町は健康増進課四名、介護衛生課一名の計五名の保健師が配置されており、屋久島保健所には保健師三名が配置されています。うち、しおさい会会員は五名です。

屋久島町の課題としては、自然志向の住民の健康問題、精神科病院がない島での患者対応への困難さ、離島の人材確保の困難さなどがありますが、介護保険や母子保健、歯科保健、自殺対策等多くの分野で町と保健所で協議しながら一緒に取り組んでいます。

その契機として平成二十七年五月二十九日の口永良部島新岳の爆発的噴火に伴う全島避難への対応があります。当時、屋久島に口永良部島民が避難し、健康管理をはじめとする避難者への対応と情報交換、今後の業務について検討するため町と保健所保健師の連携会議を開始しました。

現在でも、頻度は少なくなったものの二ヵ月に一回、町と保健所の連携会議は継続しております。業務分担制かつ若手保健師が多い中、保健師・栄養士でお互いの業務についての情報共有・意見交換でき、先輩から助言をもらえ、横の連携を密にできる機会となっています。

また、ランチ会や訪問看護ステーションの看護師さんも巻き込んで夜の懇親会をしてみたりと、同窓生の先輩後輩と話が盛り上がることもあります。

最後になりましたが、口永良部島噴火に際しましては、皆様から様々な形で御援助いただきましたことに感謝するとともに、今後も、協働して屋久島町の健康と安心できるまちづくりに取り組んでいきたいと思います。

モッチョム岳（本富岳）を背景に

新入会員紹介

平成30年 鹿児島大学医学部保健学科
看護学専攻卒業生 しおさい会入会者

編集後記

・念願だった「しおさいホームページ」を開設しました！魅力たっぷり、情報満載の内容になっています。ぜひ一度開いてみてください。皆さまの投稿もお待ちしています。

・今年は２年に１度の総会が開かれます。記念すべき２０回となる今回は、武蔵野大学看護学部教授（元日本看護協会保健師職能委員長）中板育美先生の講演会を計画しております。多くの会員の皆さまとお会いできるのを楽しみにしています。

（文責：末吉）